

書評

「怪しい日本語研究室」

イアン・アーシー著

人文社会科学研究科
国際地域研究専攻2年
山下絵里

概要

著者：イアン・アーシー
1962年生まれのカナダ人。
「和文英訳」翻訳家。



出版：新潮社



本を選んだ動機

- 日本人以外の視点から見た「日本語」の面白さ
- 国籍を越えた、著者の観察の鋭さ
- 読みやすい文章

「私」と「僕」のはざままで

「小生が日本語でしゃべる時、このイアンは己のことを何と呼ぶべきかで悩むことがある。我が輩は外国人である。 (P19)」

日本語における人称の多さに言及
翻訳を行うときはどうするのか？

曖昧に聞こえる理由

「○×って、日本語として正しいですか」
と聞いたら、
「正しいんじゃないですか」と言うのだ。
「いや、だから、正しいですか？それとも正しく
ないですか？」
「正しいんじゃないですか」 (P21)

日本語における「曖昧さ」に言及
主語の欠落の多さを指摘

「てにをは」に感謝を

「ビールでいい」とは妥協の言葉、「ビールがいい」は理想論、「ビールはいい」ではごめんこうむる。(P49)

助詞が持つ表現力の高さ
助詞を最も有効に利用しているのは新聞の
見出し？

勉強しなくても「頭の良い人」と 評判になる文章術

整備文体

1. 特定商業集積
2. 過度な母子の密着
3. 語学学習意欲の高まり
4. 各主体の自主的対応尊重
5. 制度を整備した上で措置
する

口語体

1. ビジネス街
2. マザコン
3. 外国語ブーム
4. みんな勝手にやればいい
5. 少しあとでやります
(P74 抜粋)

全て役所書類から引用。
日本語のまわりくどさ

カネを巻き上げる名目

「ぼられたっ！」カンカンに怒って女房が美容院から帰ってきた。べらぼうに高い「セミ・ロング代」を取られたというのだ。長い時は「ベリー・ロング代」。短いときは「ベリー・ショート代」。ほぼ完全な包囲網らしい。(P94~95 要約)

「敷金」「礼金」など、日本の文化とも関わりのある日本特有の言葉

外来語にうなされて

ボクの本職は日本語で言うと、「フリー」翻訳家。英語だと「フリーランスレーター」になるだろうが、それじゃどういう身分なのかよく分からない。拘留されていない翻訳家？拘留される心当たりはないと思うんですけど。（P125 要約）

英語を外来語に直す際にはある程度の規則性がありそうだが、様々な言語に由来しているためひとくくりにできないカタカナ語

一番いやらしいのはしかし、ぴったりの日本語があるくせにみだりに外来語を使うことだろう。例えばニーズって、よく目に付くけど、「必要」とか、「要望」とか、単純に「欲しい」とか、日本語でずっと正確な言い回しが勢ぞろいしている。(P126)

外来語の使用を禁止しているのではないが、
単語の持つ意味を再考する提案

まとめ

- 外国人であり、翻訳家という二つの視点からまとめられた興味深い内容
- 現実に対しての解決策は提示されていない
- これを読んで我々はどう行動すべきか？